

豊和スチール

仮設ガードレールが好調

新名神・大津で2100メートル採用

重仮設資材リリース・販売・工事業の豊和スチール（本社＝大阪市西区、宮ノ腰孝雄社長）は、リース取扱製品の1つである仮設ガードレールの「HSGUARDDARD」が高稼働を維持しており、NEXC O西日本による新名神

高速道路（仮称）大津ジャンクション（JCT）付近の工事で約2100メートルが採用されている。「HSGUARDDARD」は、A種（GRAI2B）仕様の高速道路・一般道兼用タイプの仮設ガードレール。ガ

ードレールは日鉄建材製。施工性が高く、作業効率の大幅アップを図ることができるとの評価から、高稼働率を保ち受注を積み重ねている。豊和スチールでは主に関西・中四国地区の拠点で在庫展開している。

関西地区を通る新名神高速道路は、大津―神戸間のうち残る高槻―八幡京田辺（10・7キロ）、城陽―大津（25キロ）の工事が進行中で、2023年度の開通を目指している。HSGUARDDARDの採用されている大津



仮設ガードレール「HSGUARDDARD」

JCT（仮称）は、既設の新名神との接続部に当たる。高速道路は大規模リニューアル工事の時期に入っており、仮設ガードレールのニーズは

引き続き高いとみられる。同社では今後、工場拠点のある関西地区で予定されている、中国自動車道の関連工事などの需要にも対応していく考え。